

白藍塾オリジナル

2011入試小論文分析&解答のヒント

2011年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・樋口裕一・大原理志・大場秀浩

●慶応・経済学部

前年度と違い、今年度は設問Aで短い要約文、設問Bでやや長めの小論文を書かせるという、オーソドックスな問題となっている。

課題文の内容を簡単にまとめると、次のようになる。

「大学教育をどうするかについては、教養・学問を高める教養教育を徹底すべきだとする考え方と、職業人としての素地を作るための職業教育を重視すべきだとする考え方の二つがある。近年は若者の離職率が高く、学業から就業への移行がうまく進んでいない。それは、日本の教育では、『職業的意義』が軽視され、職業教育がおろそかにされてきたからだ。そのため、大学で学んだ知識が職場でほとんど生かされていないのである。そうならないように、大学でもっと職業教育の比重を高め、理科系の学生の数を増やすか、文系であっても企業に就職してからも業務に生かせるような科目を中心に教えることが必要だ」

設問Aは、「筆者は、現在の日本における大学教育の何が問題で、今後どのような変化が必要であると述べているのか」を説明する問題だが、要は課題文の要約が求められていると考えていい。上で説明したような内容を、指定字数内にまとめればそれでいい。

設問Bは、「現代社会で起こっている解決すべき課題の具体例を一つあげ、それに対処するために大学で学んだことがどのように役立つと考えられるか」を述べる問題だ。これだけだとやや漠然としているように思えるが、「教養教育」と「職業教育」の特長に関連付けて論じよとあるので、課題文の議論を踏まえて論じればよいことが

わかる。

構成としては、最初に、これからの大学教育において、教養教育と職業教育のどちらを重視すべきかを問題提起する。その上で、「展開」の部分で、現代社会の課題の具体例を挙げ、「教養教育（または職業教育）を重視することで、こうした課題に対処できる」というように論じると、うまくかみ合うはずだ。

課題文に賛成して「職業教育を重視すべき」とする立場で書く場合は、たとえば、「今の日本では、長期の不況や少子高齢化の影響で、職場における世代交代がうまく進んでおらず、職場で直接若者に専門的な技術や経験を伝えることが困難になっている。これからの大学は、若者にそうした職業的な知識や技術を伝える役割を担う必要がある」などのように論じることができる。

課題文に反対して「教養教育を重視すべき」とする立場で書く場合は、たとえば、「グローバル化が進んで、日本の若者も否応なく国際的な場で活動することを余儀なくされるようになる。その際、欧米のエリートと対等に渡り合うには、単なる職業的な専門知識ではなく、グローバルな視野と高い教養が求められる。そのため、大学ではむしろ教養を高めるための教育をする必要がある」等の論が可能だ。

課題内容への対応の仕方さえ間違わなければ、答えやすい問題だと言えるだろう。

©執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>